

7:11 それから間もなく、イエスはナインという町に行かれた。弟子たちと大ぜいの人の群れがいっしょに行った。

7:12 イエスが町の門に近づかれると、やもめとなった母親のひとり息子が、死んでかたづけ出されたところであった。町の人たちが大ぜいその母親につき添っていた。

7:13 主はその母親を見てかわいそうに思い、「泣かなくてもよい。」と言われた。

7:14 そして近寄って棺に手をかけられると、かっついていた人たちが立ち止まったので、「青年よ。あなたに言う、起きなさい。」と言われた。

7:15 すると、その死人が起き上がって、ものを言い始めたので、イエスは彼を母親に返された。

7:16 人々は恐れを抱き、「大預言者が私たちのうちに現われた。」とか、「神がその民を顧みてくださった。」などと言って、神をあがめた。

7:17 イエスについてこの話がユダヤ全土と回りの地方一帯に広まった。

イエス様が奇跡を行われたのには目的があります。もちろんイエス様は愛のお方ですが、愛するがゆえの奇跡であるなら、ほかにも多くの悲しむ人々には愛がなかったことになってしまいます。また全能の力を持った方ではありますが、それを示すことが目的であるなら、もっと多くの力を示しても良いはずです。しかし弱いまま十字架に架られました。

イエス様がみわざをなされたのは、ご自分が旧約に予言されたメシヤであることを証しするためでした。そしてこの箇所は、そのメシヤが命の主であることを表した出来事です。さらに深い理解が進むなら、その命とは単に地上のものだけでなく、永遠の

命なのです。

ですから、今私たちが期待するのは、イエス様が命を与えてくださることであり、それが永遠の命であるということです。その永遠の命を明らかにするために、癒しや生き返りのわざもあるかも知れませんが、何より大切なのは永遠の命です。

その永遠の命が与えられていることは、生き返りよりも素晴らしいことです。そのことに感謝し、また驚き、そして希望を持ちましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

